

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：34420

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K02620

研究課題名(和文) イギリス現職教育にみる文学の省察的読みの力を育む対話型小中連繫学習指導プログラム

研究課題名(英文) A study of the reflective, actively communicative learning programmes with literary texts in the primary and secondary teacher education in UK

研究代表者

松山 雅子 (Matsuyama, Masako)

四天王寺大学・人文社会学部・教授

研究者番号：50173927

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：イギリス内ロンドン小中国語科教師教育センターの文学を軸とする学習指導体系を、文献調査ならびに現職研修参加等を通し考察し、口頭発表、論文発表を行った。その理論的基盤の一つ、G. Kressの社会記号論の著作『マルチモダリティ - 今日のコミュニケーションにせまる社会記号論の試み』(溪水社、2018)を翻訳・自費出版し、探求を深めた。

これらの研究を踏まえ、関西地区の小中高校国語科教員の協力を得て、編著『書くことの手をなくくむマルチモーダル・アプローチ - 自己認識としてのメディア・リテラシーをめざして』(溪水社、2021)を自費出版し、学校現場へ実践的にかかわる手がかりの一つとした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

考察対象のCLPE, EMC両教科教育センター開発の文学を軸とするリテラシー学習指導の実際は、学び手が、自らを、読み手、書き手、話者として自覚的に省察する機会を基盤とし、話す・聞く、読む、書く、見る、演じるを不可分に関係つけた、わが国で留意され始めた「ディープ・ラーニング」の高次な学びの創造であることが明らかになった。その理論的基盤のKressの社会記号論の訳出によって、我が国のマルチモーダルな国語科学習指導開発へ手がかりとなった。

実践的な寄与としては、編著『書くことの手をなくくむマルチモーダル・アプローチ』(溪水社、2021)を通して、小中高校の国語科学習指導に対する具体的な提案を行った。

研究成果の概要(英文)：The Centre for Literacy in Primary Education, founded in 1970 as an academic subject education research centre under the jurisdiction of the ILEA, UK, has promoted the quality of teacher education of language (English as a mother tongue) and literacy teaching for more than 4 decades. This research has focused on a gradual continuities of teaching literacy texts between the CLPE and the English & Media Centre (English in-service research centre in Secondary Education: EMC), hoping that this research would contribute to the reflective, actively communicative learning with literary texts in the primary/secondary education in Japan. One of the basic theory for the UK Education reform, G. Kress's "Multimodality" (Routledge, 2009) was translated, self-published in 2018. Additionally on the basis of this research, "A multimodal approaches to teaching writing in the primary/secondary Japanese teaching" was self-published in 2021, supported by Japanese school teachers.

研究分野：教科教育学

キーワード：比較国語教育 イギリス国語科教師教育 CLPE EMC マルチモーダル・アプローチ 義務教育の体系的学習プログラム

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、内ロンドンの国語科教師教育センターを研究対象とした、平成24年度-26年度科学研究費助成研究基盤(C)「現職教育にみる1970年以降の英国初等教育におけるリテラシー教授の研究」(No.24531122)の成果を踏まえた発展的継続研究を志したものである。先の研究成果は『イギリス初等教育における国語科教育改革—Centre for Language/Literacy in Primary Educationの取り組みを中心に』として公に還元した。(2015年3月、溪水社)ナショナル・カリキュラム(NC)が制度として成立するための推進力となったものを明らかにしないかぎり、イギリスという国の教育改革のプロセスは解明できないのではないかと思ひ至り、そのための一つの条件を満足させるものとして、教科教育センターに着目し、その理論的実践的成果をまとめたものである。

具体的には、推進力となった教師教育機関である小学校リテラシー教育センター(Centre for Literacy in Primary Education:CLPE)に視座を置き、カリキュラム構想・企画段階、実態の把握、公文書として制度化、調査・開発研究とそれを踏まえた方法の提示と実地展開、結果としてのカリキュラム改訂、新たな調査・研究への着手などが連動した40年間というスパンで、教育改革のまさに動いているさまを継続的に捉えようとした研究としては、初めてのものであった。こうした普及、推進に迫ることは、わが国の教育改革を再考するうえで、言い換えれば、わが国の学習指導要領をいかに作成し、優れた成果が提案されたとき、いかに普及、浸透させるか、その手立ての必要条件を考えるうえで、貴重な観点を見出す一助となったと考える。

2009年CLPEセンター長との面談を具体的なきっかけとし、2010年から本格的に始まった研究は、上記のとおり40年の教育改革史を捉えるところに、5年を要した。その間知り得たことの一つに、多言語文化ロンドンに位置するCLPEが、誰もが英語に触れられる抵抗感の少ない入口として、文学を明確にリテラシー教授のただなかに位置づけ、教師教育の中核に据えようとした体系的営みの有効性であった。参加した現職研修では、学習対象テキストとしての文学言語の価値をていねいに読み解く段階を経て、方法論へと展開し、パイロット実践を行い、交流、修正の後、広く適応されていく、半年、1年をかけた継続的教師教育のプログラムが常道であった。小中一貫の国語科カリキュラムの作成が急務のわが国の教師教育、ならびに、移民の子弟がともに学ぶケースも少なくない関西地域の現職研修にかかわってきた一人として、とりわけ、教師の教材分析力の絶え間ない育みと多様な対話型の言語活動(ロールプレイ、ホットシーティングなどの演劇的解釈活動、描画、知識構成型ジグソー、他のメディアへ語り直す再創造活動ほか)を必然的に組み合わせるべく教師教育に多くの示唆を得、実際の現職研修や授業指導に援用する試みを重ね、国語科教育にかかわる雑誌等にも提案を連載してきた。

2015年以降は、戯曲、詩、物語/小説とジャンルに沿い、小学校高学年のCLPE読書力向上プロジェクトと中学1年生(イギリスの第7学年)対象の中等国語科教育センター(English & Media Centre:EMC)の学習指導プログラムを考察し、文学言語の特質にそった体系的連携の内実を探求してきた。「内ロンドン小学校国語教育センターのこころみ(13)―「マクベス」を手がかりに、読書力向上プロジェクト(POR)、義務教育修了資格試験(GCSE)および大学受験資格試験(GCE Aレベル)の求められる到達点を探る試み」(大阪国語教育研究会 第318回例会,2015.9.13)他の口頭発表、Sue Ellis(前CLPEセンター長、現IOE/UCL講師)(2016.9.16 於:IOE、ロンドン)、Andrew McCallum(EMCセンター長)(2016.9.20 於:EMC、ロンドン)との面談などを踏まえ、考察結果を公表してきた。本研究は、これら先行研究を省察し、義務教育の国語科教師教育における文学を軸にした学習指導体系をさらに具体的に探求しようとしたものである。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、義務教育における文学教育の体系的学習指導プログラムの開発を広義の目標に据え、そのうえで、比較国語教育の立場に立ち、初等から中等への連携に焦点を当て、イギリス内ロンドンの小・中国語科教科教育センター(CLPEとEnglish & Media Centre:EMC)の文学を軸にしたリテラシー学習指導プログラムの内実を、文献研究ならびに実地検証(センター主催の現職研修への参加等)を通して明らかにすることである。それによって、言語文化的社会的背景のいかにかわりなく、高等教育進学を志す者なら誰でも、条件が許す限り、大学入学資格試験GCEに挑戦し得るよう、その基盤形成期として機能することが期待された小中連繋の国語科教師教育のありようを探求することを目指した。

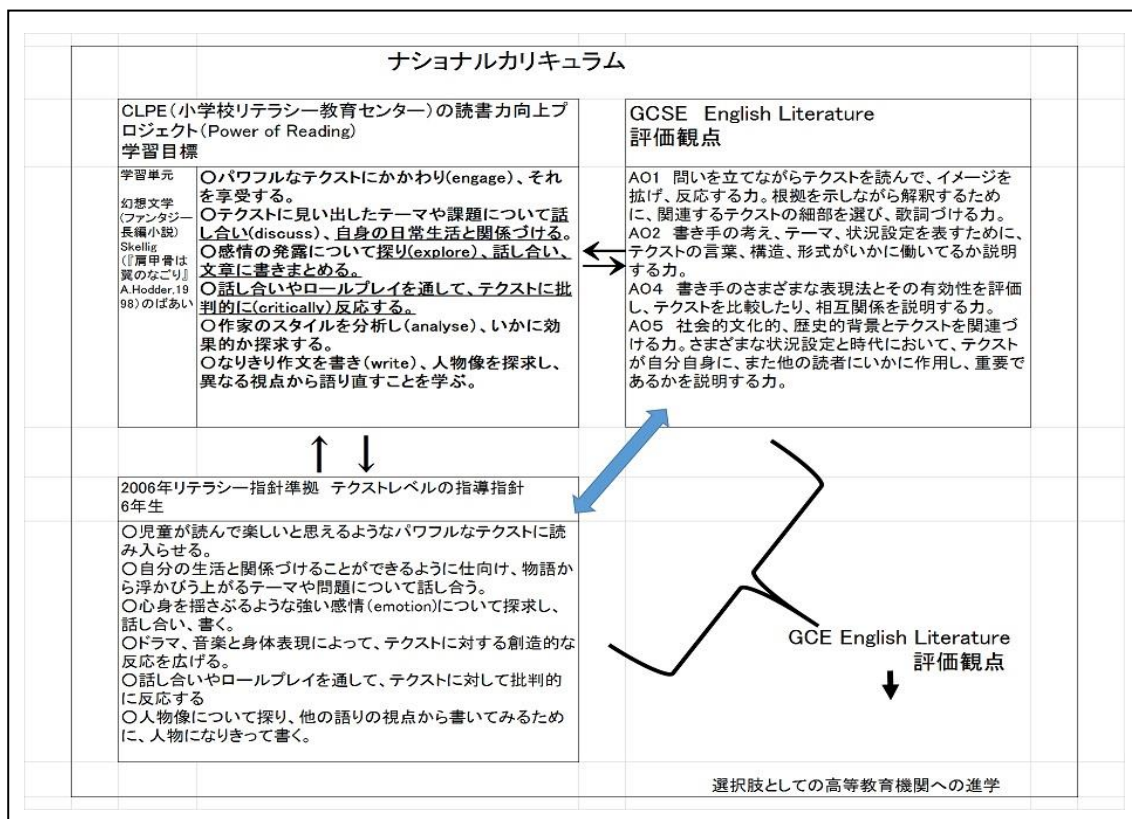
具体的には、以下の2点を目指している。

- ① 豊かな文学テキストとのかかわりを生む対話型・参加型学習指導の場の具現化を支える、教材分析力と方法論の不可分なかわり、それに基づく授業構想、その積み重ねが生む小中連繋の学びを実現しようと試行する内ロンドンの義務教育国語科の教師教育の内実に迫ること。

- ② 教材の特質が必然的に求める対話型・参加型の学習指導方法のありようを、大阪府下の小中学校の教諭の協力を得て、小中の連携を視野にパイロット授業を行うことで、わが国へのより実践的な新たな問いへと繋げること。

### 3. 研究の方法

先行研究を通して明らかになったのは、教科教育センターが開発し実施する文学を軸とするリテラシー学習指導の実際は、学び手が、自らを、読み手として書き手として話者として自覚的に省察する機会を基盤として、話す・聞く、読む、書く、見る、演じるが不可分に関係づけられた、まさに今わが国で留意され始めた「ディープ・ラーニング」の高次な学びの創造であることであった。この基本姿勢は、内ロンドン教育局 (ILEA) 傘下の教科教育センターとして設置され、ILEA 解体後は、独立採算制組織となった小・中国語科教育センターに如実に見て取ることができる。両者は、文教政策の変動する 40 年余、一貫して多言語文化社会に学ぶ児童・生徒の社会に生きる言語能力の育みに寄与する主体的、創造的、省察的教師の育成に貢献してきた。



これらをもとに、CLPE 読書向上プロジェクト学習目標事例と NC 細目として編纂されたりテラシー指導方略指針 (2006 年版) の連動、ならびに EMC の教師教育の基本指針となる義務教育修了資格試験 GCSE の評価観点との不可分な連携を概観し、義務教育における体系的国語科教師教育の必要性とそれに応じた CLPE/EMC 両者の実績の積み重ねを探求する。

具体的には、以下の 3 方向から研究を試みた。

- ① 現職教育に活用されてきた両センター編・刊の学習指導概論書、センター主催の現職研修へのリモート参加、センター長、センター職員とのメールによる質疑等を通して、具体的な文学テキストの学習指導の目的、方法、評価についての教師教育の具体に迫る。
- ② 両センターの国語科教師教育の基盤が形成されて時期の中心となる理論基盤のひとつであった社会記号論について、Gunther Kress にインタビューし、著作 *Multimodality: A social semiotic approach to contemporary communication*. (Routledge, 2009) の翻訳と関連論文の考察し、国語科教育観への視座を得る。
- ③ イギリスにおける国語科教師教育の考察を踏まえ、大阪府を中心とした小中高校の国語科教員の協力のもと、義務教育の連携、さらには高等学校への連動を意図した、マルチモーダル・アプローチによる書くことの学習指導開発と提案を試みる。

### 4. 研究成果

- ① 学習指導対象として、韻文、散文を軸に、CLPE 読書向上プロジェクトと EMC の文学学習指導書の単元を軸に考察し、義務教育到達度公試験 GCSE とのかかわりも踏まえ、体系的な具体的な教材テキストをもとに分析し、口頭発表ならびに研究誌に論文を発表した。

関連論文は以下の通りである。

「詩を軸にした初等から前期中等国語科への体系的リテラシー学習指導の素描—Bleiman, B. & Webster, L (2001) *EMC KS3 English Series :The Poetry Book* の単元に見られる創作と批評の相関」、『国語教育学研究誌』第 30 号、大阪教育大学国語教育研究室編刊 H30 (2018) pp. 75-93

「イギリス初等国語科教育における意味生成過程再考のこころみ—マルチモーダル社会記号論の提言と実践的応用への試行」、『国語教育学研究誌』第 31 号、大阪教育大学国語教育研究室編刊、H30 (2018) pp. 169-178

「イギリス義務教育における体系的なリテラシー学習指導—第 7 学年詩の入門単元 (Bleiman, B. & Webster, L. (2001) *EMC KS3 English Series: The Poetry Book* 所収) でめざされた詩的言語との主体的な対話への誘い—」『国語と教育』44 号、大阪教育大学国語教育学会編・刊、R1 (2019)、pp. 1-31

「今日的コミュニケーション状況と〈書くこと〉の学習内容の再構築—イギリス現職教育のめざした指導者の説明言語」『書くことの手をめぐむマルチモーダル・アプローチ—自己認識としてのメディア・リテラシーをめざして』溪水社、R3 (2021)、pp. 279-295

「イギリス現職教育にみる文学享受力のはぐくみ—義務教育到達点としての 19 世紀長編小説」『国語教育学研究誌』32 号、大阪教育大学国語教育研究室・編刊、R 4 (2022) pp. 37-49

「イギリス現職教育にみる文学享受力のはぐくみ (2) —重層的な読み手を顕在化させたディケンズ作品の学び—」『国語教育学研究誌』33 号、大阪教育大学国語教育研究室・編刊、R5 (2023) pp. 37-49

- ② ギュンター・R・クレス『マルチモダリティ—今日のコミュニケーションにせまる社会記号論の試み』(溪水社、2018. 12. 10) として監訳本を自費出版した。
- ③ 小中高校の国語科教員との実践的考察、協議を踏まえ、編著『書くことの手をめぐむマルチモーダル・アプローチ—自己認識としてのメディア・リテラシーをめざして』(溪水社、2021. 8. 31) を自費出版し、学校現場へ実践的にかかわる手がかりの一つとした。幸い、多くの読者を得て、2022 年オンデマンド重版となっている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 松山雅子	4. 巻 32
2. 論文標題 イギリス現職教育にみる文学享受力のはぐくみ 義務教育到達点としての 19世紀長編小説	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国語教育学研究誌	6. 最初と最後の頁 37 49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 松山雅子	4. 巻 46
2. 論文標題 学習者の学びを跡づける教師の説明言語 - 2000年代イギリス初等現職教育の調査研究プロジェクトの試み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国語と教育	6. 最初と最後の頁 30 42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 松山雅子	4. 巻 44号
2. 論文標題 イギリス義務教育における体系的なリテラシー学習指導 第7学年詩の入門単元（Bleiman, B. & Webster, L. (2001) EMC KS3 English Series: The Poetry Book所収）でめざされた詩的言語との主体的な対話への誘い	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国語と教育	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 松山雅子	4. 巻 31号
2. 論文標題 イギリス初等国語科教育における意味生成過程再考のころみ マルチモーダル社会記号論の提言と実践的応用への試行	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語教育学研究誌	6. 最初と最後の頁 169-178
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松山雅子	4. 巻 30号
2. 論文標題 詩を軸にした初等から前期中等国語科への体系的リテラシー学習指導の素描 Bleiman,B .& Webster,L (2001) EMC KS3 English Series :The Poetry Bookの単元に見られる創作と批評の相関	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語教育学研究誌	6. 最初と最後の頁 75-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 アンドリュー・ランバース (松山雅子 訳)	4. 巻 第84集
2. 論文標題 画一化されつつある教育状況下のコミュニケーション 小学校17校の児童談話にみる書くという行為の捉え方	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語科教育	6. 最初と最後の頁 12-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松山雅子	4. 巻 32号
2. 論文標題 イギリス現職教育にみる文学享受力のはぐくみー義務教育到達点としての19世紀長編小説	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国語教育学研究誌	6. 最初と最後の頁 37-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松山雅子	4. 巻 33号
2. 論文標題 イギリス現職教育にみる文学享受力のはぐくみ (2);重層的な読み手を顕在化させた ディケンズ作品の学び;	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国語教育学研究誌	6. 最初と最後の頁 37-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 松山雅子
2. 発表標題 内ロンドン小学校国語教育センターの試み（21） - イギリス現職教育にみる小中連繋国語科学習指導の一事例 義務教育到達点で求められる長編小説の受容
3. 学会等名 大阪国語教育研究会（オンライン開催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松山雅子
2. 発表標題 イギリス初等国語科教育における意味生成過程再考のこころみ 2 UKLA調査研究プロジェクトの試行から
3. 学会等名 大阪国語教育研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松山雅子
2. 発表標題 イギリス現職教育にみる小中連繋国語科学習指導
3. 学会等名 全国大学国語教育学会 第137回仙台大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 松山雅子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 301
3. 書名 書くことの力をはぐくむマルチモーダル・アプローチ 自己認識としてのメディア・リテラシーをめざして	

1. 著者名 ギュンター・R・クレス (松山雅子 監訳)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 374
3. 書名 マルチモダリティ 今日のコミュニケーションにせまる社会記号論の試み	

1. 著者名 松山雅子 (編著)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 301
3. 書名 書くことの本質をめぐむマルチモーダル・アプローチ - 自己認識としてのメディア・リテラシーをめざして	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------